

図書館利用教育実践セミナーin京都2009

高校から大学へ 情報リテラシー教育をつなぐ

「図書館戦争」をメディア読解の 教材に変える

2009. 3. 14

1

梶山女学園高・中図書館
学校司書 天 野 由 貴

はじめに

- ① 人気アニメが突然放送中止に
 - ② 16歳少女が斧で父親を殺した事件
- ① 青少年有害サイト規制法(2008. 6)、
あっという間に成立
- ① 有害情報は誰が決める
- ① フィルタリングソフトは万能か
- ① 過去にもあった、メディア規制法案

2

「図書館戦争」の世界が現実になる

- ① 「メディア規制法」と「メディア良化法」
- ① 私たちの知る権利は？
 - ② 憲法第21条
 - ② 子どもの権利条約第13条
- ① 有害か無害か、メディアを見極める力
 - ② 子どもの権利条約第17条
- ① 情報社会で生きていくための力
- ① 身近な問題を解決する時に、情報リテラシーが試される
- ① → <http://www.toshokan-sensou.com/>

3

学校紹介

- 明治38年開校、今年104周年
- 幼稚園から大学院までを擁する、
東海地区唯一の女子総合学園
- 中学・高校6年間の一貫教育体制
- 中学校1学年6クラス 648名
- 高校1学年10クラス 1,200名
- 専任教員 約100名

4

図書館沿革

- 昭和54年独立棟図書館として開館
- 平成17年8月、新校舎中央館1階、
総面積907.27㎡の新図書館完成
- 校舎の真ん中に位置し、すべての生徒が
アクセスしやすい環境
- 3クラス同時授業が可能なスペース
- 平成13年度よりPTA会員への開放

5

校舎全体図

6

図書館データ

- ④ 館長1名(教員・司書教諭)
- ④ 学校司書3名で運営(有資格:専任1名)
- ④ 蔵書冊数は、現在約98,500冊
- ④ 年間受入冊数 約3,500冊
- ④ 図書館を活用した授業、年間約400時間
- ④ 館内のどこからでも無線LAN接続でインターネット検索可能
- ④ 閲覧検索用端末8台
- ④ 調べ学習用ノートPC約90台

7

8



9



10



11



図書館メディア・オリエンテーション

- ④ 2001年秋、「総合的な学習の時間」開始と共に、教員組織との協働企画として実施
- ④ 教科「情報」との住み分けにより、図書館が情報リテラシー教育を担当
- ④ 新学期初め、新入生(中1・高1)を対象に毎年実施
- ④ 生徒と共に教員も参加するオリエンテーション

12

メディア・オリエンテーションのねらい

- 情報リテラシーを育成するための基礎
- 生徒が、探索過程の始めから終わりまで、一連のプロセスを体験する
- 情報リテラシーに関する知識と体験を記憶にとどめる
 - 経験知の活用
 - 探索過程の振り返り
 - 全情報源の把握
 - 人的情報源の認識

13

メディア・オリエンテーションの構成

知識導入50分

1. 図書館利用ガイド 10分
2. 情報探索過程：情報の探し方5Step 5分
3. 印刷媒体メディアと電子媒体メディアについて 22分
4. 情報の評価とまとめ：著作権 3分
5. 図書館見学 10分



探索実習50分

「知の探検家」問題
知識の復習と体験

1. 一人一問：出席番号と同じ番号の問題を解答
2. 複数の情報源を利用する
3. 探索過程を記入
4. 探索過程の振り返りと自己評価
5. 解答用紙は、担任回収

14

メディア・オリエンテーションでの学び

- メディアの特徴、長所・短所
- メディアから情報を収集するために必要なスキル
- 情報源であるメディアの評価方法
- 情報を活用する方法
- 利用可能・有効な情報源に関する知識
- 新しく獲得した知識と体験の活用方法

15

情報の探し方 5つのStep



16

「知の探検家」問題

- 図書館にある全ての情報源を利用する
- 事典などで基礎知識を深めると、順調に解答できる問題
 - 印刷資料のタイムラグをインターネット・データベースで補い、発展性のある問題
- 解答が重要ではなく、探索の全プロセスが体験できる問題
- よく知っていると思う事柄、話題性のある事柄、根拠を調べると意外に難しい問題



17

「知の探検家」解答用紙

- 複数の情報源を調査し、情報を比較する
- 自分の言葉でまとめる
- 探索過程・探索方法を振り返る
- 振り返りを記録し、体験を記憶にとどめる
- 反省や発見から、次の学習のヒントをつかむ
- 自由記述による生徒の試行錯誤の足跡・学びの内容を記録

18

教育への反映と効果

- ④ 生徒と共に、教員も探索実習を疑似体験
- ④ 生徒の記録を分析し、後の学習へ生かす
→分析結果のフィードバック
- ④ 知識を獲得し、新しい知識を創造するプロセスを通して、探究する学習へ展開
- ④ 探究学習が成功する条件
 - ④ 有効な全ての情報源の把握
 - ④ 課題に関する背景知識の獲得
- ④ テーマ設定の方法

19

広がる情報リテラシー教育の格差

- ④ 学校間で広がる情報リテラシー教育の格差
 - ④ 学校図書館に対する認識の差
 - ④ 担当者による教育内容の差
- ④ 情報リテラシー教育を含まない総合学習
- ④ 教科「情報」では教えない情報リテラシー
- ④ PISAショックによる学習指導要領の改訂
- ④ 「総合学習」から「探究学習」へ

20

情報リテラシー教育をつなぐ

- ④ 多様な情報リテラシー教育の背景を持つ学生
 - ④ 図書館利用も調べ学習も体験なし
 - ④ 公共図書館利用の経験有→図書館基礎知識有・・・かも
 - ④ 学校図書館での調べ学習体験有→レポート作成可能
 - ④ 探究学習経験者→論文作成も可能

21

背景・レベルによる情報リテラシー教育

- ④ 学生の期待に応えるオリエンテーション
 - ④ 印象付けの重要性→モチベーション
 - ④ 背景による体系的な教育
 - ④ 疑似探索プロセス体験
- ④ レポートから論文作成へ
 - ④ テーマ設定の重要性
 - ④ 2段階調査→背景知識の充実からテーマ設定へ
 - ④ 発想力・推測力・想像力の育成

22

おわりに

- ④ 日常の疑問や問題を解決する力
- ④ 情報社会をより豊かに生きていくための力
- ④ 生涯学習で生かせる知識とスキル
- ④ 図書館から図書館を越える

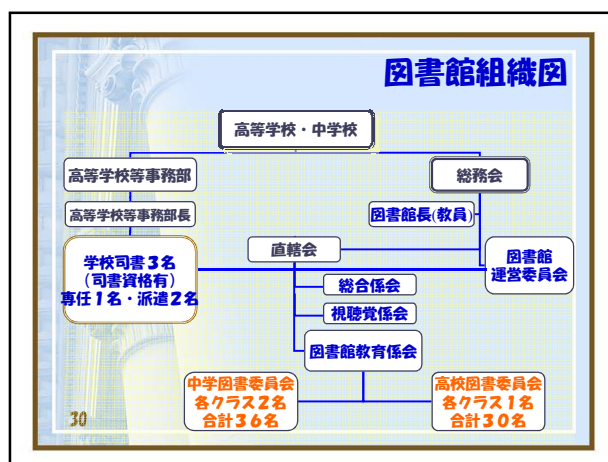
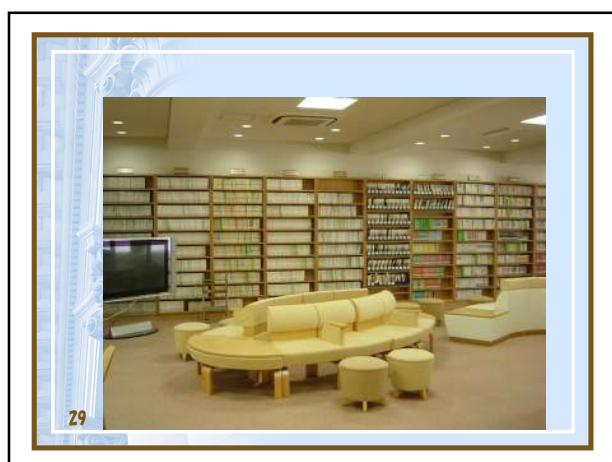
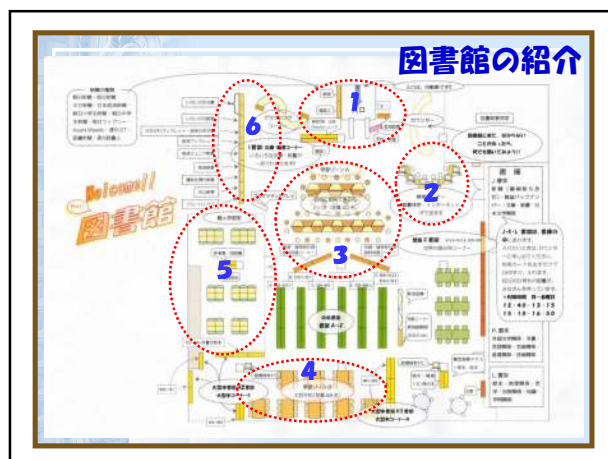
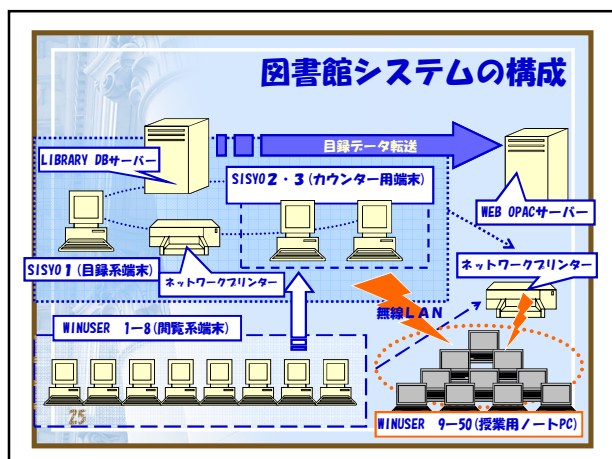
23

Thanks



梶山女学園高・中図書館

24



図書館を活用した授業状況

学 年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
高1	20	10	0	2	0	2	10	0	0	14	0	0	58
高2	0	1	0	0	0	15	11	6	2	0	0	0	35
高3	0	0	0	1	0	1	20	0	0	0	0	0	22
中1	5	5	21	1	0	10	20	4	4	4	0	0	74
中2	0	1	12	2	0	6	2	10	3	15	0	0	51
中3	6	6	0	0	0	12	7	1	3	12	12	0	59
H18	0	0	0	0	0	6	0	6	1	9	18	1	41
H17	0	9	6	4	2	2	0	6	0	6	6	0	41
H16	0	3	3	0	0	0	0	0	0	8	4	0	18
H15	6	12	18	1	0	11	1	14	7	18	18	0	106
H14	0	16	2	0	0	1	6	12	0	0	0	0	37
H13	37	42	45	9	3	38	58	25	14	54	36	0	360
H12	0	21	16	0	1	54	55	29	6	56	22	1	261

図書館システムを100%活用する

- ① 教科との連携＝蔵書資料の活用
 - ② 検索機能の活用
 - ③ 汎用書誌印刷の活用
 - 資料リストの提供と授業利用への迅速な対応
- ④ 教員への情報提供＝データの活用
 - ⑤ 各種統計データの活用
 - ⑥ CSV機能の活用
 - データの加工による、各種情報の迅速な提供

32

WEB OPACの活用

- ① 学内専用ページによるデータベースの活用
- ② 知識コンテンツサイト1種
- ③ 新聞データベース3種
- ④ 授業課題や授業準備での活用
- ⑤ キャンパス内であれば、どこでもアクセス可能

33

- ① 蔵書目録の公開とPTA会員への利用提供
- ② 家庭内でのコミュニケーションツール

Step 1 問題を理解する

- ① 問題の内容を理解する
- ② 基本的な事典・辞典を使いこなす
 - ③ 百科事典・国語辞典・新語辞典
 - ④ 目次・索引
- ③ テーマ別の事典・事典
- ④ 新聞や雑誌
 - ⑤ 切り抜き情報誌・縮刷版
 - ⑥ バックナンバー

35

Step 2 図書館にある情報源を探す

- ① 探すための方法を理解する
- ② 資料の配架方法
 - ③ テーマ別の配架とNDC
 - ④ サイズ別の配架と別置コーナー
- ③ OPACの利用方法
- ④ 最終画面の手がかりから、情報源にたどり着く
- ⑤ 人的情報源

36

Step 3 図書館から情報源を探す

- ① インターネットのしくみを理解する
- ② 正しく利用するための情報モラル
- ③ インターネットの得意・不得意
 - ④ インターネットは万能ではない
- ④ 検索することば(キーワード)の選択
- ⑤ 検索の順番
- ⑥ 信頼のおけるサイトを選択
- ⑦ データベースという情報源の活用

37

Step 4 収集した情報を比較・評価する

- ① 複数の情報を比較する
- ② 百科事典でも、内容が違う
- ③ インターネットの情報には要注意
- ④ 自分に必要な情報を見極める
- ⑤ 信頼のおける情報を見つけるために、
アプローチの方法を考える
- ⑥ 次の機会のために、情報源を評価する

38

Step 5 情報をまとめて正しく利用する

- ① 自分の言葉でまとめる
- ② どこからの情報か、証拠を残す
- ③ 著作権法を理解し、著作権を守る
- ④ 出典を意識的に書く
- ⑤ 出典に必要な情報の見方
- ⑥ インターネットにも、著作権はある
- ⑦ 情報を共有する

39

「知の探検家」から全教科学習へ

- ① 体験を全ての教科や学校行事の事前学習における問題解決に生かす
- ② 各学年における、学校行事事前学習の積極的な支援
 - ③ 授業内レファレンスサービス
- ③ 継続的に「調べ学習」体験をつなぐ
- ④ 全ての学習を支える図書館活動を推進

40

学習センター機能の強化

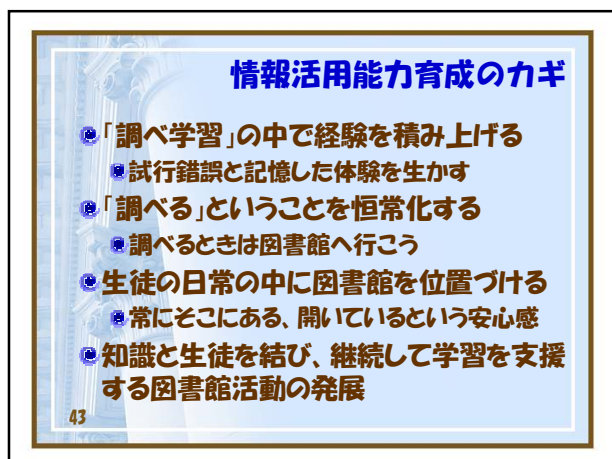
- ① ハード面の強化
 - ② 利用者の要求に迅速かつ的確に応えるための図書館システムの構築
- ② ソフト面の強化
 - ③ システムを100%活用し、さまざまなサービスの提供と実施
 - ④ システム更新の維持とサービス内容の拡大→教育活動との連携

41

情報活用能力を育成するために

- ① 「調べ学習」の継続的な支援
 - ② 図書館メディア・オリエンテーションの継続
 - ③ 授業内レファレンスサービスの充実
- ② システムの機能を100%活用し、「人」でしか行えないサービスを拡大
- ③ キーワードは「人」と「継続」

42



情報活用能力育成のカギ

- 「調べ学習」の中で経験を積み上げる
 - 試行錯誤と記憶した体験を生かす
- 「調べる」ということを恒常化する
 - 調べるときは図書館へ行こう
- 生徒の日常の中に図書館を位置づける
 - 常にそこにある、開いているという安心感
- 知識と生徒を結び、継続して学習を支援する図書館活動の発展

43